



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2016年11月号



発行人：濱塚有史 編集人：君塚彩 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



「元気な声がかきたくて」

工藤 悦子（ぷらいむ・たいむ本町校スタッフ：えっちゃんリーダー）

元気にぷらいむに帰ってくる子どもたちの「ただいま」と私たちリーダーの「おかえり」のあいさつで、今日も学童の時間が始まります。入学当初は新しく大きなランドセル姿が可愛い1年生たちも、色々な経験をするたび顔つきが変化し体格もガッチリきてきて、あっという間に皆見違えるようになっていきます。

そんなぷらいむでのエピソードの一つを紹介します。忙しくて来る回数が減った高学年生たちが、その日は珍しく揃っておやつを食べながらリーダーたちの人物評定を始めました。「最近リーダーが多くなったけど、Aは俺たちの話を聞かなくて不公平だ」「俺たちより後に来たくせにBは偉そうに怒っている」など井戸端会議のおぼちゃんたちのような辛辣な会話。

私は？と耳をダンボにしていると、やっとなら私に。「えっちゃんは…」と言って私と目が合った査定評価人？は、「まあまあ」と適当な言葉でスルーしました。なんだ！？この微妙な間合いは！？低学年生の頃学校へ迎えに行くと帰りたくなくて、線香花火のごとく飛び跳ねてリーダーたちを困らせていた彼らが、今ではその場の空気を読んで本音と建前を使い分けできるくらい精

神的に成長していたのです。

YMCAのキャッチフレーズに”君でいいんだよ！”があります。良いところも悪いところもひっくるめて自分は一人の人間として大切な存在だという自己肯定感でしょうか？自分を見てくれる人たちがいるという安心感が、友達や遊びを通じて自分たちの世界を持ち、自信を持って自分の考えをしっかりと伝えることに繋がるようです。

小学生時代は、いずれ親離れしていく子どもに、親が積極的にかかわれる最後のチャンスとも言われます。毎日仕事に子育てに頑張っておられる親の皆様、このチャンスを生かして親子でよい時間を過ごし背中を押してあげてください。個性が育つのを見る楽しさを感じながら、子どもたちからの様々な気持ちをキャッチできるように、スタッフ、リーダー皆で協力し合いながら成長を見守っていきます。



♪ 仙台YMCAチャリティランに参加しました♪

9月22日に、仙台YMCA主催で行われたチャリティランに参加しました。チャリティランとは、長距離走の大会を開催し、その大会の収益金を募金や支援活動に充てる、といった趣旨のイベントです。YMCAのチャリティランの収益金は、全国の障がい児支援のプログラムに充てられています。

今回、盛岡YMCAは昨年に引き続いての参加となりました。残念ながら優勝を勝ち取ることは叶いませんでしたが、参加したリーダー・スタッフたちが全力で楽しむことで、大会の盛り上がりの一助となることのできたのではないかと考えています。

また、来年は盛岡YMCA主催のチャリティランを企画しております。仙台の取り組みを参考にし、盛岡でのチャリティランをどのように盛り上げていくか考えるよいきっかけにもなりました。

ますおリーダーこと東海林俊一さんより、当日のレポートが届いています。



今回も、仙台YMCA主催のチャリティランに参加させていただきました！

「去年の3位という結果を受けて、今年は優勝を追求するチーム」「かわいさを追求するチーム」「走り切ることを目標とするチーム」…盛岡YMCAは、以上の3チームでエントリーしました。去年とは違い、スタッフがチームには入っていないという状況でしたが、盛岡YMCAなりに今年のチャリティランを盛り上げていくといった意識を持って臨みました。

自分たちのチームが走り終わったら、他のチームを応援したり、一緒に走ったりなど、盛岡YMCAのいいところを他のチーム

に見せることができたのではないかと思います。また、そういったことをする中で、他のチームからも一緒になって応援してくれる人が出てきたりもしました。チャリティランに参加したすべての人が、盛岡YMCAを先頭に1つになりかけるような時間を作ることができたと思います。

来年は盛岡YMCAが主催のチャリティランを行うため、すでに動き出しています。個人的な意見にはなりますが、今年の仙台でのチャリティラン以上に、参加したすべての人が1つになって楽しんでいけるような企画になったらいいなと思います！

盛岡大学4年 東海林俊一（ますおリーダー）



盛岡YMCAからの最年少参加者は、なんと3歳！キラキラの笑顔に、みんな癒されていました！ ←



こちらは、盛岡YMCAのスタッフたち。朝5時半に盛岡を出発し、大会運営のお手伝いをしました。 ←



こちらは、参加したリーダーたち。みんながんばりました！ ←



→ 楽しくダンスしているかのようにですが、こちらは準備体操のようす。



→ 走るリーダー。そして応援するリーダー。そしてYMCAのチーム力が光っていました。



→ ご協力くださったワイズメンズクラブのみなさんと一緒に、集合写真！

やきいもパーティ ★ in 前潟センター！

ぶらいむ・たいむ前潟校に誕生し、すっかりおなじみとなった「畑」。この畑で、さつまいもが収穫されました。芋がとれたら、食べなくては…！ ということで、焼き芋パーティを行いました！

みんなで手塩にかけて育てたお芋を「石焼き芋機」で焼くと、びっくりするほど甘く、汁もしみ出るほどのおいしい焼き芋になりました。「お店で食べるよりずっと美味しい！」といった声まで飛び交います。

そして、このお芋を食べた場所は、お芋を収穫した畑！ なんだか、感慨深さで胸がいっぱいになりました。

以前とうもろこしを収穫した際には、子どもたちによって「とーもろこし戦隊」なる部隊が結成されましたが、今回もいろんな部隊が作られました。「わたしも準備し隊」「とにかく食べ隊」「ほくほくし隊」「食べながら変顔し隊」「オレたちが、ぜひ、かたづけし隊」などなど…。楽しみながら、畑や収穫物に積極的にかかわっていく子どもたちの姿に、成長を感じました。

今後も、前潟の畑では、さまざまな作物を育てていきたいと考えています。畑と関わりながら過ごす子どもたちが、どんな表情を見せてくれるのか、そしてどんな成長を見せてくれるのか、今後も楽しみにしています。



↑ 収穫したお芋に、アルミホイルを巻いていきます。



↑ こちらが石焼き芋機。じっくり焼き上げていきます。



↑ 焼きあがったお芋のおいしさに、みんな大感激！



↑ おいしさのあまり、全力でかぶりついています。

☆日本YMCA大会に参加しました☆

10月8日～10日に、御殿場のYMCA東山荘にて、「日本YMCA大会」が開催されました。この大会は2年に1度、「ミッションと課題の確認」「全国運動の一致と協力」「世界運動への参画」「YMCA間の交流・研修・情報交換」の4つの目的で開催されているものです。今年は、盛岡YMCAからも、リーダー・スタッフが参加しました。盛岡YMCA外のイベントには初参加となったスタッフ2名より、当日のレポートが届いています。



初めてYMCA大会に参加しました。様々な人たちのお話を聞ける良い機会として捉え、自分なりに挑戦することを目標に参加しました。

大会では、良い社会にするためには何が必要か、グループでの話し合いを行いました。後半は、シニアの方のグループと自分のグループの意見交換をし、考えを深めました。それ以外にも、全体を通して、部屋にいるとき、食事をするときなど、初対面の人と一緒に共同生活をする機会が多くありました。

緊張しっぱなしの3日間でしたが、夕食後の交流会や、同室の人たちとの飲み会にできるだけ参加し、自分から関わることの大切さを感じました。自分の関わりに対して周りの方が受け入れてくれたことが嬉しかったからです。話し合いの際も、シニアのグループの方が、オープンな関係で話すことを大切にしてくれたことがとてもありがたかったです。また、そういった人のように自分も周りの人や子どもたちに関わっているのか、自分を見つめ直す機会にもなりました。話し合いを通し現在の社会についても考えてみたいことが増えました。学校の試験や就職、企業の成績など一つの価値観だけで評価される社会の息苦しさ、人と人の繋がりを大切だと考えている人がグループの中で沢山いるにも関わらず、実際の社会がそうではないこと、それに対してYMCAで何ができるのかについてなどです。

今回参加して感じたこと、考えたことをこれからも活動の中で大切にしていきたいと思いました。

向中野センター 副センター長 尾形裕一郎 (ちゅーリーダー)



10月8日から10日まで日本YMCA大会に行かせていただきました。内容は、日本全国の各YMCAの人たちが集まりグループディスカッションをするというものでした。

僕のグループは8人で、一つのテーマに沿ってみんなで意見を出し合っていました。お互いの意見を尊重、受容、傾聴し、決して否定しないというルールでした。3日間で計5回のディスカッションをしたのですが、その中で僕が印象に残ったテーマは、社会を変えるためにどう一歩を踏み出すかというものでした。

そのためには、まず自分の周囲の人や環境に目を向けて、各個人の良さを引き出せるように必死になって、関わり続けるのが大事だということに気づきました。そのことにより、互いの違いを認めつつ受け入れあえればきっと良い社会になっていくのだと思います。勇気をもって、小さなことでも自分が出来ることを必死にやっていきたいです。また、目標を達成するという意志を持ち、向かおうとする意志があれば、今はたどり着けなくてもいつかは行けると思います。

そういう熱い気持ちを抱き続けながら、これからもYMCAの活動に臨んでいきたいと思っています。貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。

本町センター ディレクター 中村圭一 (ソニックリーダー)



研修のため盛岡を離れて
いる浅沼スタッフの元気
そうな姿も見ることがで
きました。



年齢や所属YMCAと
いった違いを越え、様々
な方と交流するよい機会
となりました。



なんと、ジャズのライブ
もありました！普段な
かなか聴けない生演奏を
堪能しました。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 10月報告書

①日本YMCA大会にて、「被災地にクライマーを送る会」表彰！



「被災地にクライマーを送る会」の皆さんが、日本YMCA大会にて表彰されました。「被災地にクライマーを送る会」とは、登山家の皆さんによるボランティアチームです。2011年の東日本大震災直後より現在に至るまで、宮古ボランティアセンターの活動に長く携わりつづけてくださっています。

日本YMCA大会には、廣川健太郎さんと角屋貴良さんが参加され、表彰状と記念の楯が授与されました。

②「こどものための創作教室」を行いました！

宮古高校・盛岡一高の美術部の企画によるイベントが、今年も開催されました。インターン生のピーちゃんリーダーこと大藤百華さん(岩手大学3年)より、レポートが届いています。

わたしたちは、10月23日に宮古中央公民館で行われた、盛岡YMCA後援による盛岡第一高校と宮古高校の美術部による合同企画、「こどものための創作教室」に参加しました。この企画は、宮古の子どもたちを対象とし、高校生とさまざまな企画を通じて交流を深める、というもので、今年と一緒に絵を描いたり、自分たちが描いた絵を使ってトントン相撲をしたりとさまざまな要素が盛りだくさんのイベントとなりました。



た。このイベントの企画は、盛岡第一高校と宮古高校の美術部の部員の話合いによって作り上げられていきました。どのようにしたら子どもたちが喜んでくれるのか、どうしたら盛り上がるイベントとなるのか、高校生たちが一生懸命考え、一から企画を練って準備まで進めていきました。

当日は9人の子供たちを迎え、最初は子どもと接することがごちなかった高校生たちも、一緒に絵を描いたり体を動かしたりしているうちに自然と笑顔が増え、積極的に子どもたちに話しかけたり一緒に遊んだり、高校生と子どもたちが一体となってイベントを盛り上げていく様子が伝わってきました。普段は子どもと接する機会も少なく、はじめは不安そうな表情だった高校生たちも、このイベントを通じて子どもと接する楽しさを感じ、最後には全員が笑顔でイベントを終えることができました。



普段はなかなか接することのない他校の学生と協力し合ってイベントを作り上げていく、という普段の学生生活ではなかなか体験できない貴重な経験は、高校生たち自身の成長にもつながったと思います。今回の経験を糧に、今後のさまざまな活動ががんばってほしいです。

11月の予定

- ★11月13日(日)
サンデースクール
「ドリームキャッチャーづくり」
- ★11月15日(火)
火曜水泳講
- ★11月19日(土)
森のようちえん
「秋をぎゅっとつめこんで♪
こうさくキッズ☆」
(於:内丸教会・盛岡城跡公園)
- ★11月23日(水・祝)
街頭募金
- ★11月27日(日)
アドベンチャークラブ
「馬と一緒に遊んじゃおう♪」
(於:馬っこパーク)
- ★11月29日(火)
火曜水泳講



君でいいんだよ
～JUST THE WAY "YOU" ARE 29～

『わたしたちはどこから来て、どこに行くのか?』



「わたしたちはどこから来て、どこへ行くか」同じタイトルの本が現在、3冊出版されている。テレビで有名な池上彰さんを始め、作者はそれぞれ異なった角度からこのテーマに迫って行く。一方この絵のタイトルは、「我々はどこから来たのか。我々は何者か 我々はどこへ行くのか」。十九世紀末に描かれたゴーギャンの代表作である。「不來方(こずかた)のお城の草に 寝ころびて 空に吸われし 十五の心」岩手に住む人なら誰でもご存知だと思うのが石川啄木の有名な歌だ。学校を抜け出し、空を眺めて啄木は、何を思い描いていたのだろうか。「不安」「孤独」「希望」などプラスやマイナスの要素が混じり合った、言葉ではなんとも表しにくい、「漠然としたなにか」が彼の心を占めていたに違いない。

先月、静岡県御殿場市で開催された日本YMCA大会に参加して来た。日本全国から約300名が参加し、その半数以上が若者たち「ユース」だった。「働き始めると、本質的な問題がある意味避け

て、考えないように生きていこうとする。その方が楽だからだ。その意味でこの問題に立ち止まって考えられる人は、肉体的にはシニアでも精神はユースなのではないか。」大会中ある人が語っていた。

「わたしたちはどこから来て、どこへ行くのか」このことは、人類にとって不滅のテーマであると言える。もちろん、人生の中では、そんなことは考えていられない、「生きることで精一杯」の時期もあるが、青少年も大人も同じ土俵で、照れずに話し合う機会は、今の時代、相当少ないような気がしている。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くのかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである」

(共同訳聖書 新約 ヨハネ福音書3章:8節)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

表紙の写真から



日本YMCA大会より、盛岡から参加したリーダーたちです！

☆リーダー紹介コーナー☆

こんにちは！ショッカーです！今回紹介するリーダーは、みなさんお待ちかね、ダイラーリーダーです！！

その前に初めましての方が多くと思うので少し自己紹介をさせていただきます。僕は、岩手県立大学の総合政策学部2年の伊藤陸といいます。今回紹介するダイラーリーダーに誘われて今年から活動に参加しています！今年の夏はキャンプに参加させていただき、とてもとても楽しい時間を過ごすことができました！

さあ！ダイラーリーダーの紹介です！！ダイラーリーダーは、僕と同じ岩手県立大学の総合政策学部2年で、本名を松平大知といいます！「まつだいら」の「だいら」をとってダイラーという名前になったそうです！そんな彼はアドベンチャーやサンデースクールなどの活動に参加しています★

ダイラーリーダーはとてもおもしろい！！僕のダイラーリーダーへの第一印象は、「なんかでかくて面白いやつ」でした(笑)普段の何気ない行動や、しゃべることが面白いです！寝っ転がっているときはまるでトドのようです。でかいです。そんなダイラーリーダーはみんなのことを真剣に考えてく

れるとても優しいリーダーです！！みんなが話しやすいように雰囲気を作ってくれたり、場を盛り上げてくれたりします！いつもみんなを明るくしてくれます！相談にも親身になってくれるので何か悩みがある人は気軽に相談してみてください！！

また彼は高校時代軽音部に入っていたので歌も上手！車を運転しているときはいつも歌っています(笑)ギターも弾けるのでいつか演奏してもらえませんか！！

まだダイラーリーダーと一緒に活動したことがないという方！ぜひ楽しみにしてみてください！！優しくおもしろく大きなダイラーリーダーに話しかければ何か面白いことを言ってくれるかもしれません！！

以上、ショッカーからのリーダー紹介でしたー！

左がダイラーリーダー、右がショッカーリーダーです！



感謝

(2016年度10月26日現在)

五十音順・敬称略

●維持会費

- 秋永光里、浅沼慧、有我啓作、飯島隆輔、家村知佳、池田二郎、一戸貞文、伊藤克見、伊藤眞一、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤みどり、井上浩太郎、井上修三、井上優子、上中優奈、魚住英昭、嶋丹谷三千代、遠藤昌樹、及川茂夫、及川忠昭、小川嘉文、小澤聡、レナード、押切梓、小畑孝子、小山憲彦、角谷晋次、川坂保宏、神田橋慧一、菊地弘生、北田アユ子、君塚彩、工藤あさひ、工藤泰、熊谷圭祐、熊谷咲希、熊谷力實、小林茂元、昆野香代子、今野聖子、今野健男、齊藤恒夫、佐藤翔、清水弘一、清水治彦、杉田弘美、高瀬裕彦、滝川佐波子、立花辰、田村治之、長岡和義、長岡正彦、名古屋恒彦、南原良哉、花田暁、濱塚有史、早坂春希、林辰也、原寛、人見晃弘、廣川厚子、廣川健太郎、廣川はるな、古澤伸、尾聡子、増田隆、水田賢次、水野暢夫、光永尚生、守口咲良、守上昌輝、森山日菜乃、森山幹大、山口貴伸

●寄附金

- 池田二郎、伊藤克見、遠藤昌樹、及川茂夫、大岡靖一、角谷晋次、北田アユ子、熊谷圭祐、熊谷紗希、熊谷力實、昆野香代子、佐藤翔、高瀬裕彦、長岡和義、名古屋恒彦、南原良哉、早坂春希、花田暁、原寛、人見晃弘、光永尚生

●東日本大震災被災地支援募金・献品

- 3・11チャリティコンサート実行委員会、飯島隆輔、大阪YMCA、私立捜真小学校、馬場一郎、日本基督教団城西教会、ワイズメンズクラブ西日本区

●熊本地震・YMCA救援・復興募金

- 家村知佳、石崎眞珠、伊藤克見、伊藤眞一郎、伊藤眞太郎、小畑孝子、北田アユ子、君塚彩、熊谷亜希子、熊谷力實、昆野香代子、昆野璃紗、清水弘一、菅恵、名古屋恒彦、増田隆、松尾聡子、吉田航平、吉田美波

●熊本地震被災YMCA支援募金

- 浅沼慧、浅沼美希、家村知佳、石崎眞珠、伊藤眞一郎、伊藤愛美、井上修三、岩井和己、嶋丹谷三千代、遠藤昌輝、大岡靖一、小笠原真紀子、尾形裕一、工藤泰、小川明佑、小川嘉文、高橋亜也子、菊地弘生、工藤泰、佐々木千賀子、高橋亜也子、滝川佐波子、立花辰、日本基督教団内丸教会、日本基督教団宮古教会、濱塚有史、早坂春希、女鹿乃々華、盛岡YMCAリーダー会、もりおかワイズメンズクラブ、四元尚志、吉田飛太郎